

蓬萊町だより

第三十八号  
平成6年5月20日  
発行 蓬萊町会  
編集 文芸者

蓬萊町界限(その三十一)▽

八百屋お七のこと(上の一)

林 順信

●お七、鈴ヶ森に消える  
お七の放火は奉行所に知られ、お裁きを受けることになった。

当時の法律では、「火附御仕置之事」として、「火を附け候う者は火罪、ただし、燃立つし候はば死罪」とある。火罪とは火あぶりの刑という極刑であった。

お白洲では、奉行の中山勘解由(かげゆう)が「お七、お前はまだ十五であったな、そうじやない？」とナゾを掛けてくれたが、すっかり気がどうてんしている若いお七には、そのナゾ掛けはよみとれなかった。

「いいえ、私は十六でございます」と真正直に答えた。本人がそう確答する以上、お上でもいた仕方なく、お七の火罪は決まった。  
吉三郎も放火をそのかした罪で同罪という

極刑となった。

天和三年三月二十九日、馬上に連なった二人は市中引き廻しの上、東海道出口の鈴ヶ森の刑場で火あぶりの刑に処せられた。

それを知った寺小姓の左兵衛は剃髪染衣して法名を西運と号して諸国を行脚し、目黒の明王院仁一字を建立してお七の霊をとむらい、七十七歳で入寂したと伝えられる。

現在と異って、自由恋愛もままならぬ三百余年前のこの出来ごとは、江戸の庶民に羨望と共感をよび起こし、とても余人に出来そうもないことをやってのけ、しかも、堂々と刑にふくした十六歳の乙女に江戸人は半ば尊敬の念さえ報いたことであろう。事件から僅か2年後の貞享(じょうきょう)三年、一六八六年には、大阪の井原西鶴は「好色五人女」の第四巻として、八百屋お七をとり上げている。勿論、史学とは多少おもむきも脚色してあるものの、西鶴自身の他の情話とはちがって、お七に同情的な立場をとっている。

小石川指ヶ谷町にある南縁山田乗寺には、お七のお墓があり、歌舞伎でお七をよく演じる岩井半四郎の碑も建っている。お七の法名は「妙榮祥位尼」である。

町会活動の概要

平成6年1月から  
同年4月末まで

総務部

- 1/5 文京区と文町連との新年賀詞交歓会
- 1/12 文町連新年賀詞交歓会
- 1/18 地下鉄工事現場見学会の企画し、会員あて回覧により周知を兼ねて希望者を募る
- 1/27 地下鉄工事現場見学会を行いました。見学する工区が二ヶ所有りますので、時間帯を分けて左記の様に実施しました。
- 本駒込工区午後1時30分から参加者数25名
- 東大農工区午後3時00分から参加者数29名
- 世界に誇れる近代技術によって完成も間近いトンネル内を目の辺りに見る事が出来まして皆さんから感嘆の声が挙がっていました。
- なお、本駒込工区では北部ご在住の服部守雄様が現場で記念写真を撮って下され、無償で参加した皆さんに頂戴いたしましたので、ご厚志に厚く御礼を申し上げます。
- 1/18 向丘地区町連、新年賀詞交歓会
- 2/24 つつじ祭り実行委員会、第一回打合せ会議、開催期間、行事内容、各町会の奉仕内容と担当日等、細部に互って決まりました。
- 3/30 「緑の羽根」の募金は町会経費で行いました。

☆町会役員の一部交代のお知らせ(4月1日付)

南部 旧 長谷川 様 新 山中幸雄様  
中部 旧 青木梅太郎様 新 石川琢也様  
北部 旧 梶谷 かん様 新 鈴木勝雄様

### 防火防炎部

1/9 本郷消防団、始め式 区民センターにて  
1/13 本郷消防署関係5団体新年賀詞交歓会  
3/1~7 「春の全国防火運動」週間でした。

☆火災発生の原因第一位は放火によるもの、自分で幾ら気を付けていても付け火をされたのでは防ぐ事が非常に難しいのでは無いかと思います、その放火も単純な動機から行うと言う、自衛策は家の周辺にゴミなど火の付けられ易いものは置かない様、置かれない様に近隣の方々と申し合せて十分ご注意を

5/15には文京区と本郷消防署の共催により防火講習会が行われます、突然の火災発生にも慌てずに対処出来るには初期消火の心得を普段から身に付けて置く事が重要ではないでしょうか、その様な事を習得出来る好い機会です、奮って皆さんご参加下さい。

☆集合場所、日時、割烹、かねこ前 午前9時  
15分

### 防犯部

1/18 駒込警察署、武道始め式

### 交通部

1/21 駒込交通安全協会、新年賀詞交歓会  
4/6~15 「春の全国交通安全運動」旬間、実施、旬間中は交通部長、婦人部長、友の会会員の皆様によって街頭での啓蒙に務めて戴き、幾分でも事故撲滅の目的が果たせたと思っております。

### 衛生部

2/19 本郷伝染病予防委員会から「犬」に関するアンケート依頼があり、意見が偏らない様に町内全体の広範な中で記載を願って送付済です。

### 文化部

1/20 「蓬莱だより」37号 配布いたしました。  
1/15 本年、成年式をお迎えの皆様、誠に誠にめでとう存じます、ささやかな品ではございますが町会より祝福の気持ちを含めまして記念品をお贈りいたしました。  
なお、本年成年式を迎えられた方々のお名前は左記の通りでございます。

記

堀江綾子様、堀江宏美様、雄川良枝様、  
唐木恵子様、田中仁美様、稲田英子様、  
村山美奈様、川瀬雅之様、岸本茂樹様

3/末本年度、小学校への入学されたお子様は町内で僅か2名と少なく寂しい感もしますが、

大事なお子様を健康で健やかに育成される事を祈念し町会よりささやかながら記念品をお贈りいたしました。

お子様方のお名前は左記の通りでございます。

記

渡辺 大君、今井万莉江君

### 婦人部

2/20 本郷防火協会から防火婦人部の組織拡充に伴う部員の推薦依頼を受けましたので、次の3名の方を町会として申請いたしました。  
富永 光子様、神保 昌子様、桑田 清子様

3/4 本郷防火協会婦人部臨時総会及び講演会  
4/3 「文京区交通安全区民の集い」が環桜通りで開催の呼び掛けを受け、婦人部から3名が参加いたしました。

### 青年部

2/6 ストレッチ体操会、開催  
2/10 恒例「餅つき大会」を開催

危やぶまれた昨日からの雨もすっかり晴れ上がった期待の好天日、昨日から仕込みの餅米の炊き出しに青年部員、婦人部員総出で取り掛かる、炊き上がる頃には町内の皆さんも集まって来た。

いよいよ餅のつき手の出番、手慣れた人、生まれから初めて突く人、和気あいあいの内に餅はつき上がって行く、この様な手作りのイベントも回を重ねて行きたびに町内の子供さん達の心の中に懐かしい思い出として記憶に残る事を大いに期待して今日の行事もみんなで頑張りました。

### 3/13 ストレッチ体操会開催

3/27「春うらら野外の集」開催、初めての試みでしたが、小春日和の暖かな日差し中、野外でのひと時、近隣の方々が歓談できるような場をセットするイメージで開催してみました。

お団子にお茶を用意してお待ちしていましたが、私共の予想を上回る多くの会員の方々が訪れてもらえた様に感じております。町人の人達が初対面でも気軽に交流の出来る場を多く設けて行きたいと考えています。

## 訃報

当町会にお住まいの方で、本年の1月から4月末までの間に逝去なされた方のお名前は左記の通りでございます。

謹んで哀悼の意を表し、心よりご冥福を祈念申し上げます。

## 記

山本 宇一様、高橋 一郎様、小林富美枝様  
室 文子様、小林清三郎様

### 根津神社あれこれ — その一 —

池田 暉

文京つつじ祭りが始まって二十五年、根津様を中心にした地域の努力が実って、今年も彩とりどりにつつじが咲きました。その軸である根津神社について余り知られていない事柄があります。「蓬萊だより」の余白を借りて浅学ながらその幾つかにふれて見たいと思います。

根津様にお祭りしてある神様は、

須佐之男命・大山咋命・誉田別命・です。

それに相殿として、大国主命・菅原道真公・が

祀られています。須佐之男命は、古事記でおなじみの、天照大神の弟君で、出雲で八岐大蛇

を退治した弓矢の神様です。大山咋命は須佐之

男命の甥で、日吉神社のご祭神で山の神様です。

さらに、誉田別命は、神功皇后の御子、応神天皇

のことで、論語・千字文字、大陸文化の渡来

により、日本化の発展に寄与した天皇として、

全国的に広い信仰の中心である八幡様のご祭神

です。

ご存知の方もありますが、根津様のお

祭に「三座の舞」という神楽が舞はれます。それは、この三柱の神様を慰める神楽ということですが。この舞に使われる「面」は宝永の頃から伝わっている貴重な社宝で、当初から折にふれ使われたものと思われれます。

明治の王政復古に当って「根津神社」と改称する以前は、神仏混淆であり「根津権現社」と云われ、本尊は、須佐之男命を、十一面観世音（木立像一尺一寸五分）、山王様すなわち大山咋命を薬婦如来（坐像五寸）、八幡様（誉田別命）を阿弥陀如来（立像八寸五分）として祀られていたと思われれます。

その昔、日本武尊は東征の途次、駒込千駄木にあった元根津神社に駒を止めて、武運と国農民安を祈られたと伝えられています。

歴史が下って、大田道灌によって社殿が改められ、本郷四丁目葉師（現存）の昌泉院を別当（寺社の長）としました。この元根津社は、現千駄木三二二八で、団子坂上の信号を北に入って五十米程の千駄木マンション先の小路を東に入った突き当りです。

徳川の世となって「家宣」（甲府宰相綱重の長子、五代將軍綱吉の嗣子）が養君と被定された宝永三年に、生誕の地である甲府中納言下屋敷の一部を根津社に寄進し、社殿の造営が行われました。造営の手伝いとして藤堂蒙台が下命され、本多弾正少弼が作事用掛に任命されています。

ます。宝永三年十二月二日酉の刻(午后六時頃)千駄木にあった元根津社から現在地の仮殿に移され、翌三日戌の刻(午后八時頃)正遷座が行われました。当日は五代將軍綱吉の名代として三宅備前守が奉幣し、十二月八日に大納言家宣公みづから参詣されました。そして、九日から一般の参社が許されたようです。現在、瑞垣外に残っている石燈籠二基に、宝永三年十一月廿一日、大和守源姓久世氏重之とあり、社殿前の唐銅燈籠には、宝永七年四月廿一日、伊賀国主藤堂和泉守高敏とあります。

ご祭神の中に、大国主尊オホクニノミコトのあるのは、根津を「不寝」と読み変えたところから来たとも考えますが「江戸砂子」に「当社は大黒神をまつるなり、根津とは単の謂にし単は大黒天の祠者なれば、絵馬などにも多く単を画たり」と書かれています。又、「武江図説」に「甲府公上館は桜田で、根津の下屋敷は北方の子の方位に当る故、根に津ネヅの氣を消除して一社を造立し、根津社と云う」とも伝えてあります。いづれにしても真偽の程は不明です。更に一つ、菅原道真つまり天神様が祀られている理由は、「御府内備考」の「根津社境内惣図」の中に、社殿より南西の山中(現つつじ苑の入口を西に登ったあたり)に「天満宮」と書かれた社があり、当社に伝わる古文書にも「上野尾天満宮社(間口一間・奥行七間)拜殿(九尺四方)、近江国高嶋郡海津

西浜に鎮座これあるの写に候」とあります。そして「上野尾天神は、菅公(菅原道真公)のご自作で上野尾季祐へ給わった尊像である」と書かれたものもあります。宝永三年、根津大権現の宮居ミヤイが現在地へ移った当時の祠官、伊吹右京の祖先が、近江の海津カイヅの上尾天神山王社の祠宮であったので、根津社の社殿新造に当って社域に天神様を遷座したものと考えられます。上野尾季祐に就てはまだ調査が届きません。

現在、社殿正面、楼門(隨身門)にかゝげてある「根津神社」の額の字は、明治維新後に「根津神社」と改称した折に有栖川一品熾仁親王(仁孝天皇の猶子討幕軍の大総督)の書と掛け変えられたが、宝永の当初は「大明院宮一品公弁法親王為成」(宝永時代に天台宗座主を勤め、根津権現本社造営に当って導師となられた)の真蹟であった様です。その裏に、宝永三年十月九日癸巳日 東叡山第五世前天台座主一品公弁親王謹書とあったと伝えられております。現にこの額が何れにあるかは不明です。

現に境内に残っている楼門(隨身門)が当初からのものでないことは当然ですが、江戸後期の文人 太田蜀山人の書いた「一語一言」という本に、隨身門、門口五間、奥行三間、左右に隨身を置き、伝ふるところによれば、其の内、老いたる方は水戸西山光国公を模したものと云ふ。芸州の儒者某氏の話なりと云ふ、と書いて

います。現存の像が、そのものとは思えません。その様に見れば榮しくもあります。以上根津様の内海一紀宮司の編まれたご本をたよりに書かせていただきました。

### 蓬萊句壇

地境は人の世のこと諸葛菜

森ゆかり

陋巷のうわさ話も二月尽

青木喜一

傘持ため二人に小止む春の雨

小野向雪

折り雛を大事にかばふ下校の児

福山千重

### 編集後記

新緑の季節と共に、町会事業も年度替りを迎えます。心新たにしている所でございますが、会員皆様のご意見と英知を与えて戴き、一層奮起して務めて参る所存です、よろしくお願い申し上げます。

編集委員

小林音吉、川西正造、竹中一馬、猪熊良晃、

池田 暉